

“元氣”みのお 分科会 (討議まとめ資料)

1月23日第11回全体会議での説明

## 1. この分科会がどういう問題意識で活動を開始したか？

20世紀後半から日本では人も街も自然環境も元気がなくなってきた。わが街箕面でも商店街に活気がなくなり、箕面の山の自然環境も随分病んだのとなった。そしてなにより子どもが外で遊ばなくなり、体力的にもひ弱くなった。子育て世代は毎日が仕事と家事に追われて生活習慣病やストレスが溜まり、精神的、肉体的にも“元氣”を失ってしまった。この状況は尚一層今後も深刻化するものと思われる。

大阪のベッドタウンとして発展してきたわが街 箕面は、他市にはない自然の山麓で景観も美しく、緑豊かな「自然環境の魅力」を形成してきた。しかし地球環境の変化、生活環境の変化にさらされて、このかけがえない大きな財産を失いつつある。我々市民はこの自然環境を今後とも元氣なものとして次世代へバトンタッチすることがおおきな責務である。

人が街にできれば、街に元気が生まれ、人が山へ入り自然をやさしくすれば、山からこころを癒されそして人は元気を回復することができる。

そんな思いを大きく抱いて「人」が元氣、「街」が元氣、「やま」が元氣の実現を目指し、「あこがれの街箕面」、「住んでみたい街箕面」の実現をめざしていく事とした。

自分達の街を良くしていく。そのためにはより一層行政と、市民が一体となった「まちづくり」に取り組む事こそが大切なことである。

失ったものの復活にはその年月だけかかるといわれるが、今まさにそれに挑戦しなければならない。

## 2. 活動経過

11.21 第3回分科会で「問題意識」の整理から“元氣”をキーワードとする。

12.11 第4回分科会で現状から推察し「10年後」のめざすイメージ こうありたい姿 を展開図で纏める

12.19 第5回分科会で「めざす姿」に対して欠如している事項を「課題」としてピックアップしてみた

12.3 わいわい(株)に「街の元氣」についてヒアリング

12.12 「くらしづくり北芝ネットワーク」に「人、街の元氣」についてヒアリング

12.25 市民活動センターに「NPO活動状況」についてヒアリング

1.9、17 第6回、7回分科会で「課題と方向、アイデア」を整理する

## 3. 現時点でのまとめ(課題、取り組み方向、アイデア) パワーポイントに作成

第7回会合で、「課題、方向、アイデア」を作成したが、机上の討議中心なので、今後それらを検証するため、関係者そして現場へ出向いてより可能性の検討を重ねていく。

分科会では、基本計画、目標レベル、検証方法、計画見直しと修正体制も作成する事が重要。

具体的な 実行施策は 行政や市民、NPO、活動組織に委ねることとなるだろう

## 4. 当面の活動計画

1月 課題を明確化、方向性、アイデア

2月 方向性、アイデアの検証(関係者、現場調査)

3月 市民交流会で多くの方からの 意見収集

…… 第五次箕面市総合計画 ……

# 市民会議 第一分科会 中間報告

箕面の魅力UPで憧れのまちに

構成員

一 般	12名
サポ-ト	3名
事 務 局	2名

発表者：福西 治

# 討議にあたって

## … 問題意識 …

20世紀後半から、日本では“人”も“街”も“自然環境”も元気がなくなってきた。わが街、箕面でも商店街に活気がなくなり、箕面の山の自然環境も随分病んだのとなった。そしてなによりも、子どもが屋外で遊ばなくなり、体力的にもひ弱くなった。子育て世代は、毎日が仕事と家事追われて生活習慣病やストレスが溜まり、精神的、肉体的にも“元気”を失ってしまった。この状況は尚一層今後も深刻化するものと思われる。

大阪のベッドタウンとして発展してきたわが街 箕面は、他市にはない自然の山麓で景観も美しく、緑豊かな「自然環境の魅力」を形成してきた。しかし、地球環境の変化、生活環境の変化にさらされて、このかけがえのない大きな財産を失いつつある。

我々市民は、この自然環境を、今後とも“元気”なものとして、次世代へバトンタッチすることがおおきな責務である。

人が街にいれば、街に元気が生まれ、人が山へ入り自然をやさしくすれば、山からこころを癒され、そして人は元気を快復することができる。そんな思いを大きく抱いて「人」が元気、「街」が元気、「やま」が元気の実現を目指し、「あこがれの街箕面」、「住んでみたい街箕面」の実現をめざしていくこととした。自分達の街を良くしていく。そのためにはより一層、行政と市民が一体となった「まちづくり」に取り組む事こそが大切なことである。

失ったものの復活にはその年月だけかかるといわれるが、今まさにそれに挑戦しなければならない。

# 箕面の新しい魅力アップづくり



もう1回行ってみたいね！  
あんなまちに住みたいね！  
このまちに住み続けたいね！  
そんなふうに言われるまちになりたいね！

箕面に“**元気**”が必要

**人**が元気

**まち**が元気

**やま**が元気

イメージ

何が必要？

イメージ

何が必要？

イメージ

何が必要？

# 「人が元気」について

- ・子どもには体力をつけて健やかに育てほしいね！ 育児に悩み過ぎないで！
- ・若者の参加する祭をしたいね！ 夢や希望をもって暮らしたいね！
- ・働き過ぎの人には、気持ちだけでも何とか楽にしたいね！

健康であること

身体が健康

日常の健康管理が大切

食の安全

遊び(スポーツ)が大切

規律(ルール)やチームワーク(協調性)を守る/体力を鍛える

心が健康

癒しが大切

安心が大切

ストレス解消が大切

居場所があることが大切

しゃべれる/存在が認められる

生きがいがあること

誰かの役に立つ

人が外に出ている(動く)こと

参加するものがある

交流が活発であること

まちへ出よう！

やまへ出よう！

出かける場所がある

出かける理由がある

人材が活用(育成)されていること

年齢など、地域や属性に応じて考える

- ・家族連れ、恋人達がでかける場所
- ・子どもがでかける場所
- ・(元気な)高齢者がでかける場所
- ・他市の人を呼ぶ

- ・コミュニティセンター
- ・生涯学習センター
- ・貸し農園
- ・図書館
- ・やま
- ・政の茶屋や教学の森のキャンプ場

・Visola

・SSOK

などはある



# 「まちが元気」について

- ・それぞれの世代が、本当に必要な公園を自由に使いたいね！
- ・商店街に活気がほしいね！
- ・魅力ある観光地にしたいね！

人が集まっていること

楽しいことがある

集まりやすい

そこにしかないものがある

移動しやすい道路が大切

安心して安全であること

街燈

活気があること

新陳代謝が大切

商店街・賑わいが大切

地産地消が浸透していくこと

生産者の顔が見える取り組みが大切

観光に多くの人を訪れること

箕面山、温泉、滝、明治の森箕面国定公園の活用が大切

若者が住みたいと思っていること

オシャレなまち

美しいまち

子育て環境が充実しているまち

公園(まちなか)が活用されていること

明るいまち、景観が整ったまちであること

ゴミがないこと

交通が活発であること

# 「やまが元気」について

自然体系を守る

四季折々(美しいやま)

明るい森(手入れされたやま)

水系の確保(循環が壊れる)

人が入る(楽しむ)

子ども(幼児)

森の幼稚園(キャンプ)

街の緑化

明治の森公園・都市公園・緑地公園・街の公園

緑の回廊

やまの産物

木工・バイオマス・自然素材(炭)・食材

ゴミをなくす

里山文化の復活

大護摩・富くじ・万燈籠(マンドロ)・天狗まつり

# 人を元気にするためには何が必要？

生産者の「顔」が見えることが必要

居場所となる施設が必要

コミュニティセンター  
生涯学習センター  
図書館 など

イベントに使う拠点の利用しやすさが必要  
(予約方法や交通利便性)

サークル活動で使える/参加できる

役に立つ場の仕組みが必要

情報提供やPRの実施・充実が必要

大きい公園/近い公園/緑の回廊/花の広場/キャンプ場/歩行者天国/散策路など  
出かける場所が必要

周囲の声かけが必要

人材(財)バンクが必要

既にある人材をプールする仕組み

人材を発掘する仕組み



# まちを元気にするためには何が必要？

生活道、歩道、自転車道などの整備・改善が必要

起業を育てる仕組みが必要

朝市を広げる取り組みが必要

- ・生産体制(供給地)の確保
- ・開催場所の確保 等の検討

「道の駅」的なものが必要

- 【利点】
- ・観光客など人が来る
- ・金がおちる

シャトルバス(パークアンドライド)の検討が必要

瀧道等への接続

カーシェアリングの検討が必要

既存のMバスの見直し(有料化を含む)が必要

# やまを元気にするためには何が必要？

## 山麓保全の仕組みが必要

- 条例の整備と見直し(環境税・入山料などの徴収)
- 山びと(プロを含む)の確保

## やまを楽しむ仕組みづくり

- 緑の回廊づくり(公園間を繋ぐ)
- ディキャンプ
- 森の幼稚園
- 森のコンサート
- 歴史文化の道づくり

## やまの産業(産物)をつくる仕組みづくり

- セラピー
- バイオマス・炭
- 木工品
- 食材

## 里山文化の継承

- 大護摩・富くじ・万燈籠(マンドロ)・天狗まつり

# 最後に

自分達の街を良くしていくためには  
行政と、市民が一体となった「まちづくり」  
に取り組む事こそが大切なことである。